

歌壇

大下一真選

特選

茄子紺の江戸切子には白ワイン向かひにだれかが居ればいいのに

本駒込 唐木 よし子

戦場の阿奈多き満へと毛筆の明治の母の巻き紙の文

千駄木 石井 禮子

絵手紙のような蕪の絵の皿返す昨夕のおかずの味も褒めつつ

向丘 高野 伸子

入選

側溝を伝い流れる春雨の雨水枘へと注ぐ音温し

千石 菊地 正矩

コトコトと煮込む野菜に味沁みて旨いと言うて呉れる人待つ

千駄木 上杉 紀世子

さわやかな笑みを浮かべて席ゆずる重いカバンのスポーツ少女

本郷 萬屋 裕子

健やかに老い給うやと雪国の学友に書く文長くなりゆく

千石 小出 風沙子

亡き夫と千鳥ヶ淵の桜見し無名戦士の墓も忘れず

西片 松林 利枝

神田川水面に浮かぶ花筏再び咲かせて流れてゆきぬ

水道 高木 マリ

花散りて人の影なき並木道青葉かがやく五月の風に

大塚 加藤 喜雄

俳壇

松澤 雅世 選

特選

スキップして春にスイッチ入れてみる

西片 中島 多津子

此事多きまゝに桜も散るまゝに

千石 大石 坦

名作の生まれし坂に風薫る

千駄木 山田 鈴女

入選

屈託の無き一日や揚雲雀

小石川 秋庭 菊枝

花ミモザ香りにことば残してく

本駒込 木村 隆

老鶯の声はやわらし祖母優し

本郷 塚 公美

すいすいとつめたい川をのぼるあゆ

白山 廣田 祐諒

行く春やラフマニノフをもう一度

春日 二村 吉光

指折りぬ句碑の裏から木下闇

向丘 丸岡 正兎

笹鳴きに次を待つ間の山廬かな

千駄木 谷田貝 ちい子